2024年1月7日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

み招きがあるから

［ヨハネによる福音書1章43～51節］

その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りがない。」ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」更に言われた。「はっきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」

[1]　新しい年のはじめに

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。「おめでとう」と本当に言って良いのかどうか分からない元旦からの日でしたね。1月1日の夕方に起こった能登半島を襲った震度7の地震。2011年以来の大津波警報が出る地震が起こり、今だ、大変な状況が続いています。いわゆるお正月のテレビ番組も、殆どが地震関連のニュースに変更になりました。そして、この地震のことも勿論大きなことなのですけれども、元旦が過ぎ2日になって間もなく、加藤享先生（川越教会前牧師）が危篤になられ、間もなくして息を引き取られたという連絡をご長男の加藤誠先生から電話で受けました。皆さんもお祈り下さっていた訳ですけれども。私たち夫婦は深夜に車で病院に駆け付けましたが、結局午前2時7分に医師によって死亡の診断がなされました。先週ご一緒にここで礼拝を守ったのぞみさんや他のご家族も3人病室に入られ、「まだあったかいね」と涙ながらにそのお別れの時を持たせて頂きました。

加藤享先生、予想よりも早く主のもとに召されてしまいましたけれども、とても穏やかなお顔でした。私が今思うことは、先生のご生涯は本当に神様に導かれ、そしてその神様に献げ切った、ぶれない歩みのご生涯だったなと、いうことです。

　今日、私は少し楽をさせて頂きます。この朝の宣教ですが、最後の7～8分位は、加藤享先生の2009年4月にここで語られた宣教の原稿から読ませて頂きたいと思います。丁度今日の聖書箇所からの素晴らしいメッセージが残っておりましたので、皆さんと分かち合って、この一年をスタートしたいと思います。

[2] キリスト者の出発点―イエス様の「招き」

キリスト者の歩みというものは、誰にも出発点というものがあります。「私は生まれた時からクリスチャン」という方がおられたとして、その場合は、親の信仰というものが大きな要素だと思います。しかし、その生まれつきクリスチャンホームの方も、ある時、“神様に呼ばれる・招かれる”という時がある訳です。神様は、いわゆる運命とか空気のような存在ではなく、私たちに向こうから関わろうとするお方です。ですから声をかけるんです。どのような言葉であるかはそれぞれだと思いますけれども、端的に言えば、今日の聖書の箇所に出て来る招きの言葉です。―「わたしに従ってきなさい」とか「来て、見なさい」とかです。とてもシンプルですね。「従ってきたらいいことがあるよ」なんていうことも言いません。そういう関係であれば単なる損得勘定で動くことになり、そこには本当の心と心の結びつきというものはないのではないでしょうか？神様は、主イエス様は、本当に単純に、私たちを招くのです。そして、その招きの声を「嬉しい」と聞くことが出来る時が私たちに訪れるのですね。「このお方を信じて生きて行きたい」、「聖書のこと全部分かった訳ではないけれども、この方に自分を委ねて行きたい」、そう思えたら、もう神様があなたを捕らえていらっしゃる証だと思います。私も19才の時に、まだ分らないことだらけでしたが、イエス様を受け入れようと思った時に泣けて泣けてしょうがなかったことがあって、ああ、これで生きて行けるなぁと思ったことがありました。それは、この方はこんな無価値と思える私を知っていて下さっている、そして、招いていて下さっている、ということが迫ってきたからだと思うのです。皆さんもそれぞれにご経験があるのではないでしょうか。

今日の箇所で出て来るナタナエルという人は、イエス様から「（あなたが）いちじくの木の下にいるのを見た」と言われてそれにビックリしたようです。彼にとってイチジクの木の下は、自分を振り返る場所、独り静かになる場所、もしかしたらそこで涙を流したこともある場所だったのではないかと思うのです。「逃れ場」と言っても良いかもしれません。「逃れ場」で自分を振り返ること、それはそれで意味があると思いますが、そこで留まって、ただ内省的になるだけだったら、生きる喜びは生まれにくいでしょう。「ワクワク感」というものは出てこないでしょう。私はイエス様の招きというのは、私たちに、派手ではないけれどもワクワク感を与えてくれるものだと思います。だって、主は何故私たちを招いて下さるのでしょうか？…私たちを神の国の一員にしたくてしょうがないからです！だから私たちのために十字架でご自分の命さえも献げて下さったのです！私という人格は、孤独ではない。神に愛されている、ほかに一つも代りがないこの命であり、ユニークな人格なんだ。パウロは「どんなものも、私たちをキリスト・イエスにおける神の愛から引き離すものはない」（ロマ8:39）と高らかに語っていますけれども、それは本当です。

私たちは、今日、加藤享前牧師のメッセージから、私たちの今年一年の歩みへの神様からの励ましを頂きたいと思います。

[3] 加藤享前牧師のメッセージから―

「ナタナエルについて「この人には偽リがない」とイエスさまはおっしゃいました。我が身を守ろうとする自衛本能を備える私たちは、反射的に体裁をとりつくろうとします。ですから一切のごまかしゃ嘘と無綠に生きていける人は居ないのではないでしょうか。ナタナエルも例外ではないと思います。では偽りがないとはどういうことでしょうか？

聖書をよく読んでいたナタナエルは、ナザレとメシアがどうしても結びつかないと疑問を抱きました。しかしフィリポから「来て、見なさい」と言われると、疑問は疑問としながらも、とにかくイエスさまの許にやって来ました。この態度に自分の知識や判断に固執せず真理を真剣に求め続ける、彼の謙虚な心が現われています。救い主メシアとの出会いを求める誠実さを、偽りがない心だとイエスさまは評価して下さったのでしょう。初めて会っただけなのに、自分の内にある熱い思いを理解して下さったイエスさまに、ナタナエルはこのお方について行こうと、瞬間的に決心しました。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」あなたは神の子です―これは間違っていません。でもあなたはイスラエルの王です―は間違っています。イエスさまは全世界の救い主なのです。

イエスさまはナタナエルにおっしゃいました。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」「はっきり言っておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる」。神の天使たちが人の子の上に昇り降リするとは、神さまとイエスさまとの一体性を表します。

　バプテスマのヨハネは、イエスさまにバプテスマを授けたときに、天が開けて神の霊が鳩のように降るのを目の当たりにして弟子たちに証しました。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」。世界の全ての人を罪の滅びから救い出すために、ナザレのイエスとなってこの世に来て下さった神さま。十字架にかかり、ご自分の肉を裂き、血を流して死んで下さることによって私たちを罪から贖い出して下さった神さま。そして私たちを支配している死を打ち滅ぼして、墓より復活し、天に戻って行かれた神さま。ナタナエルも他の弟子たちも、イエスさまが明らかにしていかれる神さまの偉大な救いのみ業を、これから見ることになるのです。

しかし“百里の道も一歩”からです。イエス・キリストと出会い、従うことによって信仰生活は始まるのです。私が信仰告白をしてバプテスマを受けてから3年ほど経った時でしょうか。自分の罪深さに愕然として泣き崩れたことがありました。熊野（ゆや）牧師に「バプテスマを受けるのは早過ぎました、今こそ受けるべき時です」と申し上げました。「いや、バプテスマを受けて信仰生活を続けて来たから、深い罪の自覚が与えられたのだよ」と先生はおっしゃいました。牧師になりましてからも、自分のような者が牧師を続けていてよいのだろうかと、身をすくませる思いに襲われる山坂を幾度も経験してきました。一体いつになったらイエスさまの弟子らしい弟子になれるのでしょうか。でも最初の一歩がありましたから今日があるのですね。もっと偉大なことをあなたは見ることになる―そうですね。一年一年、それまで見えなかった神さまのみ業の偉大さ、素晴らしさが見えて来ています。イエスさまの恵みの豊かさが分かるようになってきています。有難いことです。嬉しいことです。

イエスさまと出会えて.本当に良かった、何と言う幸せ者だろうかと思います。皆さんはいかがでしょうか。そして自分を目白が丘教会に連れて来てくれた辻成史君に感謝しています。アンデレは兄のペトロを連れて来ました。フィリポはナタナエルを連れて来ました。一人ひとりが、家族を友人を誘っています。人生を変えてくれるイエスさまとの出会いを、身近な人に提供して参りましょう。」

お祈り致します。

主なる神様、新しい年をお与え下さり、ありがとうございます。私たちはあなたを離れてどこに行きましょう？あなただけが永遠の命を持っておられます。様々なことが起こって来る私たちの人生であり、この世界です。しかし私たちはただあなたに寄り頼むことが許されていることを感謝致します。おのれのわざや知識に立とうとする不信仰をおゆるし下さい。私たち罪びとを丸ごと包み、「来て見なさい」と今日も招かれるあなたの声を聞き、一歩一歩あなたとの交わりの中に進ませて下さい。主イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。